第9回
出土文化財展

日　時：平成25年6月5日(水)～6月9日(日)
午前9時から午後5時まで
※5日(水)・6日(木)は午後7時まで

場　所：掛川市立中央図書館　1階　生涯学習ホール

掛川市教育委員会　社会教育課

弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の土壙墓を発見

高田遺跡（第35次）

1．調 査 地　掛川市古岡

2．調査原因　茶園の改植

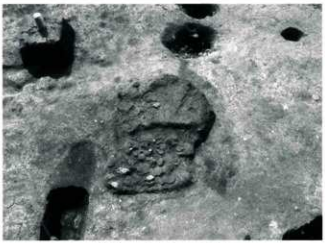
3．調査面積　1,300㎡

4．調査期間　平成24年7月～平成24年11月

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)の竪穴住居跡が2軒、方形周溝墓が4基、古墳時代の土壙墓が5基、江戸時代の墓が2基発見されました。

竪穴住居は地面を掘り下げて床面をつくる住居です。1軒は、長径約6mのだ円形で、柱穴や煮炊きをした炉跡が検出されました。通常の竪穴住居の主柱穴は4つですが、ここでは8つ発見されたことから、建て替えを2回している可能性が考えられます。炉は床面で直接火を焚いた地床炉と呼ばれるもので、2つの炉が重なっていたため、建て替えに伴い炉の位置も移動したと考えられます。もう1軒はわずかに竪穴の痕跡が残っていただけで、詳細は不明です。

竪穴住居跡



重なった2つの炉

方形周溝墓は、土壙(死者を葬った穴)の周囲に四角く溝を巡らせた墓で、弥生時代に造られました。1基は溝の一部が発見されただけでしたが、3基は約11m四方、約10m四方、約8m四方の規模で、溝が全周するものであることがわかりました。どの方形周溝墓も、土壙は発見されませんでしたが、周溝の中からは壺が出土しました。

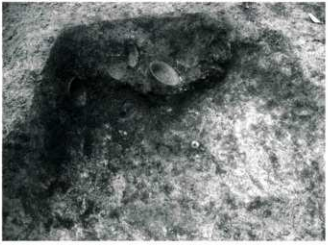
方形周溝墓

土壙墓とは地面を掘りくぼめた穴に死者を葬った墓で、土を盛り、墳丘を造った古墳と比べると簡易な形態のお墓です。最大のもので長さ 2.1m、幅 0.6m、最小のものは長さ 1.3m、幅 0.4m の規模でした。土壙墓の中からは、鉄刀・鉄鏃・刀子・鎌などの鉄製品が出土し、土器はほとんど出土していません。また 1 基には、底にこぶし大の石が敷きつめられていました。

土壙墓 鉄刀、鎌が出土した様子

石が敷きつめられた土壙墓

江戸時代の墓は長さ１ｍ、幅 0.8ｍと、長さ１ｍ、幅 0.5ｍで、１基からは、かわらけと寛永通宝が出土しました。もう１基には 30 ㎝大の石がいくつも入れられていました。また炭と骨片が出土しており、この場で火葬されたと考えられます。



かわらけと寛永通宝が出土した様子

石が入れられていた墓

作業風景

弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代の土壙墓と古墳を発見

本村遺跡・前坪古墳群５号墳

（ほんむら いせき　まえつぼ こふんぐん）

１．調 査 地　掛川市高御所

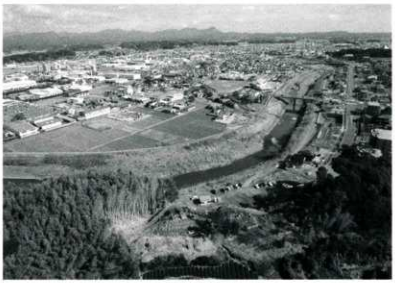
２．調査原因　都市計画道路建設

３．調査面積　522 ㎡

４．調査期間　平成 24 年 11 月～平成 25 年２月

５．調査内容

調査地は、逆川左岸の丘陵上に位置しています。この丘陵上には、古墳６基からなる前坪古墳群と、本村遺跡が存在しています。本村遺跡の一部と前坪６号墳は、区画整理により平成７年度に発掘調査が行われ、弥生時代中期（約 2,000 年前）の方形周溝墓や土壙墓、古墳が発見されました。



調査地遠景

また、今回調査した地点の西側には、前坪１号墳～４号墳が位置しています。その中で３号墳は、平成８、９年に確認調査を行った結果、全長 47m、後円部の直径約 30mの前方後円墳であることがわかっており、出土した土器が古墳時代前期(1,650 年前)のものであることから、掛川市内で最も古い前方後円墳となっています。

今回の調査では、本村遺跡からは、弥生時代中期から後期(2,000～1,800 年前)の方形周溝墓と、古墳時代後期(1,500～1,400 年前)の土壙墓が発見されました。

方形周溝墓は、溝の四隅が切れるものと全周するものがありますが、ここでは、四隅が切れていました。この溝からは、埋葬する際の祭祀に使用されたと思われる赤く塗られ

方形周溝墓

赤く塗られた弥生土器

た壺の破片が出土しました。

土壙墓は、７基発見されました。その中の１基は、長さ 2.1m、幅 1.3mの大きさの長方形でした。掘りこまれた穴の内側には、10～20 cmの岩が幅 20～30 cm、高さ約 20 cmに積まれていました。これらの岩は、木棺を支えるために積まれたと考えられます。出土品は、ありませんでした。その他、後世に壊されていた土壙墓からは、管玉や須恵器のミニチュアの壺などが出土しました。

土壙墓

作業風景

前坪５号墳からは、埋葬施設が発見されましたが、出土品はありませんでした。墳頂からは、大きな須恵器の甕が出土しました。埋葬する際の祭祀に使用されたと思われます。また古墳の東側の斜面からは、須恵器の坏身、坏蓋の破片が多数出土しました。

これらの調査結果から、この丘陵上は弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、墓域として使用されていたことがわかりました。

須恵器甕が出土した様子

東斜面の須恵器が出土した様子

弥生時代後期の掘立柱建物跡を発見

高田遺跡（第33次）

1．調 査 地　掛川市高田

2．調査原因　個人住宅の建築

3．調査面積　68.58㎡

4．調査期間　平成24年5月～平成24年6月

5．調査内容

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)の掘立柱建物跡1棟、小穴、溝が発見されました。掘立柱建物跡は、柱間が1間×2間、規模は2.6m×4.6mありました。また、煮炊きした炉の跡が2か所で確認されており、竪穴住居跡があったと考えられます。

掘立柱建物跡：人が立っている場所が柱穴

調査区全景

開発予定地内に遺跡はありませんか？
工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの〝心のふるさと〟であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、**『文化財保護法』**により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった――ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館には、市内にある遺跡の様子を示した**『遺跡地図』**がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会　社会教育課 文化財係

電話(0537)21－1158

ここからは、平成24年度に整理調査を実施した遺跡を紹介します。

林遺跡（はやしいせき）

調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡４軒、掘立柱建物跡２棟、土器集積穴１、奈良時代（約 1,300 年前）の小穴などが発見されました。

土器集積穴は、長さ３m、幅２mの大きさのだ円形で、壊れた壺、甕、高坏（たかつき）が数多く出土しました。土器を捨てた穴と考えられます。

出土土器

女高Ｉ遺跡（めだかいちいせき）

調査では、弥生時代中期（約 2,000 年前）の竪穴住居跡５軒、方形周溝墓４基を発見しました。

今回調査した方形周溝墓には、土壙の底の両端に細長い穴が掘られていることから、組み合わせ式の木棺が使われたことがわかりました。高田・吉岡地内で弥生時代中期の墓が発見されたのは初めてであり、貴重な資料を得ることができました。

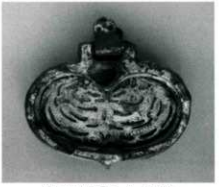
弥生時代中期の土器

東原遺跡（ひがしばらいせき）

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）の竪穴住居跡 15 軒、掘立柱建物跡３棟、溝などが発見されました。竪穴住居跡は、２、３軒重なり合っており、何回も建て替えられたことがわかりました。竪穴住居跡からは煮炊きした炉、壊れた土器が出土しました。

鉄製品保存処理

平成４年度に調査を行った堀ノ内Ｄ－１号横穴、堀ノ内 13 号墳から出土した杏葉（ぎょうよう）３点の傷みが進んだため、再処理を行いました。



保存処理した杏葉

明和9年(1772)5月21日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。

文化財愛護シンボルマーク